

## 夏の登山バス

### 立山 3000m稜線散歩 大パノラマを楽しむ予定でした



山 域：立山三山（富士ノ折立2,999m 大汝山3,015m 雄山3,003m）

山行日：2009年7月25日（土）～26日（日）

参加者：Lヨーちゃん・ミサちゃん・クー・タンタン・もっちゃん・点の記・悠山・to-me・山の家・buhiko

コース：7/25 近鉄西大寺駅7:00～多賀SA・金沢IC～立山IC12:30～室堂14:00 15:00雷鳥荘

7/26 雷鳥荘5:00 テント場5:30 別山7:45 真砂岳8:45 富士の折立 大汝山  
10:00 雄山10:30一ノ越11:30 室堂13:00～21:15西大寺 解散

7/25

記憶を遡ること30年前ぐらい、夜行列車に乗り、立山の山頂（どの山かは判らぬ）で朝焼け見た、そして黒部ダムから扇沢、へと抜けた記憶があり再訪が楽しみです。それと映画「劔岳 点の記」を見た影響もあって、期待が膨らみます。

近鉄西大寺駅に集合、登山バスは多賀 SA・金沢東 IC から立山 IC まで高速を走り室堂へ。その前に一旦バスを降りて、称名滝を観に行く。季節柄、滝の水量は多くはないが、落差からくる迫力と清涼感があって気持ちいいものでした。バス中から杉、ブナの見事な大木が目につく樹林帯を

抜けると一面の草原となり森林限界を越えたことを知ります。天狗平を経て標高 2450m の室堂着。ここから山行の始まりです。バスターミナルビルは大勢の観光客と登山者で賑わ



雷鳥荘

っており、高原リゾートという雰囲気です。人が多かった記憶がありましたが、「こんなんでしたっけ」という感じです。出発するとすぐに、微かに硫黄の匂いが漂います。地獄谷を抜けると屏風のような立山のパノラマをみながら雷鳥平に向かいました。その雷鳥平のテント場を見下ろす斜面に、今日の宿「雷鳥荘」が建っています。その外観はヨーロッパ調のオシャレな山荘ようです。案内されたのは八畳ぐらいの個室。そこに3人、夏の混雑する山小屋からみれば極楽です。風呂は温泉で、大きな浴槽から窓を開ければ気持ちいい涼風とともに山並み一望できます。湯上りは談話室で山の景観を肴にビールで乾杯、ゴクゴクゴクンの極楽、極楽です。

7/26

早朝の天候は曇りで、心配したほどの寒さではありません。山頂にはガスが掛かっています。各自準備を整えて雷鳥沢を別山に向かって出発しました。途中振



別山山頂

り向けば、雷鳥荘とテント場が眼下に見え箱庭状態です。火山性の灰褐色、ハイマツの緑と残雪の白、カラフルなテント、そのコントラストが美しい。稜線に上った時分より、ガスが濃くなると同時に小雨もパラつきだし、気温が下がってきました。雨が強くなりだしたので、別山乗越、剣御前小屋でレインスーツの下も着込むこととなります。これぐらいだと、「雨もまた楽しい夏の山」、これより「3,000m稜線散歩」の始まりかと思いました。実際はガスのため景観が楽しめなかったためか、皆早足になり、予想より早いペースで富士ノ折立

まで来てしまいました。途中滑りやすい岩場があるものの、特別に危険な箇所も無ありません。富士ノ折立はあまり登山者が来ないのか、頂上の碑も小さく、昨日の室堂バスターミナルの喧騒が嘘のようなとても寂しげなところでした。このあたりではガスも薄くなり、360°の大パノラマの展開です。また直下に雪田があり、長野側に大きな広がりを見せていました。やっとの晴れ間に、皆山座同定に余念がありません。そこから50分ほどで、休憩所の建物が見え、立山最高峰・大汝山頂上です。残念ながらまたガスが出て展望がありません。集合写真の撮影をした後、すぐに雄山に向かいます。雄山には、老若男女・登山客・観光客、またアジア系の若い団体と、大群衆です。下山道でも今まで見たことの無い雑踏です。さながら休日の心齋橋みたいで、大きな石がゴロゴロしたガレ場を登る人、下る人が入り乱れて、すれ違いが難しい有様です。観光バスが次々と到着する時間帯にぶつかったようです。そして、ウォーキングシューズとビニールの雨ガッパと、軽装の人が多いのが気になります。

聖と俗、日常と非日常・静寂と喧騒、が入り混じった、現代日本の「信仰と観光」の典型を見る思いです。

一ノ越から下る途中、ふいにガスが薄くなり明るい青空が見えてきました。下界は晴れているようです。何度か短い雪渓を渡り、また俗界の室堂バスターミナルに到着です。



雄山山頂

今回は天候には恵まれませんでした。清涼感ある称名滝、立山連峰の大パノラマ、に快適な山小屋と温泉、「ささやかな極楽、見つけたら」でした。

文・写真：to-me